三菱ＵＦＪリサーチ＆コンサルティング 主任研究員　妹尾 康志氏

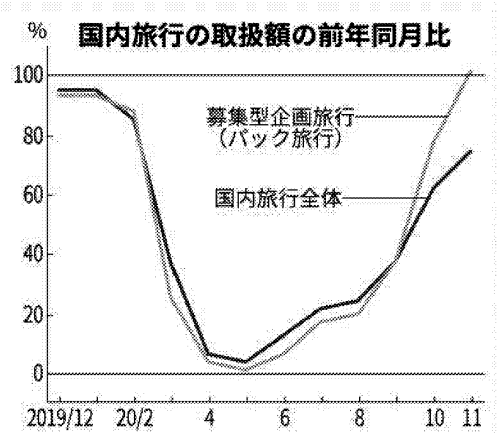
新しい日常の新しい観光（6）

パック旅行、形変え再人気

旅行形態の変化の潮流としてこれまで「パック旅行から自由旅行へ」と、しばしば語られてきた。経済発展につれて旅行者も成熟し、嗜好性や目的地が多様化したことや、インターネットの発展により個人の情報収集力が強化され、旅行パーツの直接手配が一般化したことなどが背景にある。しかし、ウィズコロナ時代においては、この「常識」にも変化が生まれつつある。

観光庁「旅行業者取扱額」によると、国内主要旅行業者の2020年における国内旅行総取扱額はコロナウイルス感染症の拡大に伴って激減し、その後の緊急事態宣言もあって５月には前年同月の3.4%（96.6%減）にまで低下した。しかし、７月に始まった「Ｇｏ　Ｔｏ　トラベル」キャンペーンの効果もあって、11月には前年同月の74.2%（25.8%減）まで回復している。

旅行業法では、旅行形態は３種類に区分されており、いわゆるパック旅行は「募集型企画旅行」ととらえられる。その募集型企画旅行の国内旅行取扱額について新型コロナ禍における推移をみると、夏までは総取扱額の動きよりもやや弱含みの動きを示していた。ところが、９月以降は強い動きになり、11月には前年同月の100.7%（0.7%増）と急回復した。パック旅行の人気が高まったことがうかがえる。



（出所）観光庁「旅行業者取扱額」より独自に計算

旅行者からみると、主要旅行業者によるパック旅行はＧｏ　Ｔｏの効果を享受しやすい構造的な有利さはあり、旅行の検討時に積極的に選択されたことも一つの理由であろう。しかし、旅行全体が低調ななか、パック旅行の取扱額は、11月にはビフォーコロナ時代のそれを上回る水準に達しており、圧倒的に好調な理由は他にもあると読むべきである。

任意の交通機関と宿泊施設を組み合わせることができるパック旅行「ダイナミックパッケージ」が05年に登場して以来、パック旅行も出発帰着時間や宿泊地・施設などについては自由度が高いものが増えている。なかには、現地着発の空港や駅を変更して、その両空港、駅間の移動までも、個人の希望にあわせてカスタマイズできるパックもある。

出発してから考える、というような人を除けば、現在のパック旅行は多くの人が期待する旅行内容に対応可能である。Ｇｏ　Ｔｏをきっかけとして、自分たちのしたい旅行がパック旅行でも実現できることに気がついた層が、一定程度いるものと考えている。

アフターＧｏ　Ｔｏ時代にも、これらの層は旅行パックのリピーターとして残ることになる。「個人にカスタマイズされたパック旅行」は、アフターコロナ時代の旅行形態として期待できる。

掲載日 2021年01月29日 日経産業新聞 020ページ
(C)日本経済新聞社 無断複製転載を禁じます。